

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
札幌ビューティーアート専門学校	平成14年3月29日	伊藤 新一	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目1-12 (電話) 011-232-3230																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
衛生	衛生専門課程	トータルビューティー科	平成16年2月17日 文部科学省告示第84号	—																						
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、美容の関連分野において、活躍する人材を育成する為、必要とされる知識と技能を教授することを目的とする。																									
認定年月日	平成31年4月26日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	62	122	129	2	14																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
200	163	0	13	10	23																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目の成績評価は、試験、レポート、履修状況等を総合的に勘案して行い、各科目ごとの基準についてはシラバスに示す。																						
長期休み	■学年始め 4月1日～4月12日 ■夏季:8月1日～8月26日 ■冬季:12月25日～1月14日 ■学年末:2月13日～3月31日		卒業・進級条件	本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談及び保護者を含めた3者面談を実施。電話による連絡も随時実施している。また、スクールカウンセラーの設置や紹介を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、学外コンテスト参加、カタリバ 等 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) エステサロン、ネイルサロン、化粧品メーカー、百貨店 ■就職指導内容 企業講話、履歴書記入、模擬面接、面談 ■卒業生数 64 人 ■就職希望者数 64 人 ■就職者数 64 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CIDESCO</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラーコーディネーター検定</td> <td>③</td> <td>70</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>サービステック検定</td> <td>③</td> <td>73</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>きもの講師免許</td> <td>③</td> <td>54</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	CIDESCO	③	8	8	パーソナルカラーコーディネーター検定	③	70	70	サービステック検定	③	73	70	きもの講師免許	③	54	54
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
CIDESCO	③	8	8																							
パーソナルカラーコーディネーター検定	③	70	70																							
サービステック検定	③	73	70																							
きもの講師免許	③	54	54																							
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中退率 5% 平成30年4月1日時点において、在学者140名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者133名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、目標喪失、経済的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学前・新入生、保護者への事前説明会を実施 ・年2～3回個人面談を実施 ・保護者との三者面談を実施																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生試験による授業料免除制度(年間5万円・10万円・20万円・30万円・50万円) ・三幸学園経済支援制度:在学中の授業料が1/4の返済不要の給付型奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	http://www.sanko.ac.jp/sapporo-beauty/couse/beauty/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
 ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
 ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
 ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
 (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ること、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、美容分野専門委員会にて提案される。

提案に基づき、美容分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
田口 佳美	NPO法人 北海道ホワイトビューティー協会	平成31年4月1日～令和2年3月31日	①
中川 彩	株式会社 東急百貨店 札幌店	平成31年4月1日～令和2年3月31日	③
小高 政利	学校法人三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校(副校長)	平成31年4月1日～令和2年3月31日	
吉田 裕美	学校法人三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校(教務課長)	平成31年4月1日～令和2年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (2月、9月)

ただし、委員が緊急に教育課程の改善が必要であると判断した場合には、随時、委員会開催を申し入れることが出来るといった弾力的な体制を取っている。

(開催日時(実績))

第1回 平成31年2月27日 17:30～18:30

第2回 令和元年9月20日 16:30～17:30

第3回 令和2年2月27日 16:30～17:30(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

①離職率が高い

⇒対応:施設実習の導入および施設実習実施後の生徒へのアフターフォローをしっかりと行い、個々の成長を促進する。
⇒実習先の方にも協力頂き、生徒の良いところだけではなく気になるところもご指導いただくようお願いをする。

②社会で活躍する為にコミュニケーション力を上げる必要がある。

⇒対応:未来デザインプログラムのシラバスを見直し、より現場に即した内容への変更を検討する。

③社会で活躍する為にチャレンジ精神を養う必要がある。

⇒対応:就職対策Ⅰ・Ⅱのシラバスを見直し、より現場に即した内容への変更を検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、美容業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。美容業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

* 授業内容については、1年次に10日間程度、連携企業先で現場実習を実施し、美容業界に必要な接客力を習得する。

* 評価については、連携企業による項目別の評価をもとに最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
着付けⅠ	日本における美容文化である着付けの技術を学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術はもとより礼節や所作などを現場の方から毎週継続して学ぶことで、接客スキルを向上させる。	小林豊子きもの学院
着付けⅡ	日本における美容文化である着付けの技術を学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では基礎知識を踏まえ、日本の美容文化への意識及び技術修得の必要性を認識し、向上心を養う。	小林豊子きもの学院
アーティストメイク	需要が高いとされる、アーティストメイクを学ぶことで、卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術テクニックにおいて、現場の方から毎週継続して学ぶことで、技術スキルを向上させる。	有限会社メイクアップアトリエ
特殊メイク	海外では需要が高い特殊メイクを学ぶことで、卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術テクニックにおいて、現場の方から毎週継続して学ぶことで、技術スキルを向上させる。	有限会社メイクアップアトリエ
パーソナルメイク	メイクの基礎習得した学生が、メイクテクニックを学ぶことで、卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術テクニックにおいて、現場の方から毎週継続して学ぶことで、技術スキルを向上させる。	有限会社メイクアップアトリエ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記</p> <p>実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の美容業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修 ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「人材育成、成功体験」(連携企業等:株式会社ROYAL) 期間:平成30年4月3日(火) 対象:教員(59名内38名) 内容:業界で成功した卒業生から必要とされる教育像を学ぶ</p> <p>研修名「人材育成」(連携企業等:株式会社芭里絵) 期間:平成30年4月3日(火) 対象:教員(59名内38名) 内容:産学連携、サロン運営についてを学ぶ</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「教務力向上セミナー生徒との関わり方」(連携企業等:笑華尊塾) 期間:平成30年8月3日(金) 対象:教員(59名内38名) 内容:様々な学生がいる中でどう向き合っていきながら育てていくかを学ぶ</p> <p>研修名「未来デザインプログラム授業の進め方について」(連携企業等:株式会社FCEエデュケーション) 期間:平成30年8月21日(火) 対象:教員(3名) 内容:どのように授業を展開していくと分かりやすいかを具体的に単元ごとに説明</p> <p>研修名「人材育成について」(連携企業等:株式会社ROYAL) 期間:平成30年8月22日(水) 対象:教員(59名内38名) 内容:学生時代にやっておくべきことと、社会で活躍する人材を育成する上で自ら行動し会社を大きくするかの秘訣を学ぶ</p> <p>研修名「美容師免許合格についての課題」(連携企業等:北海道理容師美容師養成施設教職員研修会/公益社団法人日本理容美容教育センター) 期間:平成30年10月4日(木)~5(金) 対象:教員(6名) 内容:美容師国家資格の合格率についての全国状況現状報告と今後の課題についてを学ぶ</p>
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「人材育成、成功体験」(連携企業等:AZUMADE YUI) 期間:令和元年8月22日(木) 対象:教員(17名) 内容:ネイル業界の動向と化粧品の説明</p> <p>研修名「人材育成、成功体験」(連携企業等:株式会社EBM) 期間:令和元年8月22日(木) 対象:教員(17名) 内容:エステ業界の動向と化粧品の説明</p> <p>研修名「美容師業界の動向」(連携企業等:一生美容に恋する会) 期間:令和元年8月22日(木) 対象:教員(17名) 内容:美容師業界の動向と化粧品の説明</p> <p>研修名「ヘアメイク業界の動向」(連携企業等:有限会社メイクアップアトリエ) 期間:令和元年8月23日(金) 対象:教員(17名) 内容:美容師業界の動向と化粧品の説明</p> <p>研修名「美容師業界の動向」(連携企業等:GRADUATE) 期間:令和元年8月23日(金) 対象:教員(17名) 内容:美容師業界の動向と化粧品の説明</p>

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教務力向上セミナー生徒との関わり方」(連携企業等:LLPファシリテーションアイズ) 期間:令和元年8月23日(金) 対象:教員(67名内46名)
 内容:様々な学生がいる中でどう向き合っていながら育成していくかを学ぶ

研修名「未来デザインプログラム授業の進め方について」(連携企業等:株式会社FCEエデュケーション) 期間:令和元年8月21日(水) 対象:教員(3名)
 内容:どのように授業を展開していくと分かりやすいかを具体的に単元ごとに説明

研修名「シアターラーニング」(連携企業等:株式会社ヒューマンデザイン) 期間:令和元年8月22日(木) 対象:教員(17名)
 内容:自身の殻をやぶり主体性を持ちながら行動する事を学び、人材育成をする上で生徒との関わり方を学ぶ

研修名「人材育成について」(連携企業等:OCEAN TOKYO) 期間:令和元年8月23日(金) 対象:教員(17名)
 内容:学生時代にやっておくべきことと、社会で活躍する人材を育成する上での秘訣を学ぶ

研修名「美容師免許合格についての課題」(連携企業等:北海道理容師美容師養成施設教職員研修会/公益社団法人日本理容美容教育センター)
 期間:令和元年10月3日(木)~4(金) 対象:教員(4名)
 内容:美容師国家資格の合格率におけるの全国状況現状報告と今後の課題についてを学ぶ

研修名「発達障害を抱えた学生への授業工夫について」(連携企業等:おがる)
 期間:令和元年9月20日(金) 対象:教員(67名内46名)
 内容:発達障害の生徒に対するの関わり方、授業の展開の仕方について学ぶ

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。
 学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

①施設実習の在り方について、現場で教えている技術は基礎であることを生徒に認識させ、現場に出た際に沢山の技術を習得する柔軟性を身に付けさせる
 ⇒技術授業の中で、専門学校では基礎を学び社会に出たら応用を学ぶ為、現在身に付けた技術がサロンですぐに通用するかという通用しないという事と、学校で学んだ基礎技術があるからこそ現場での応用技術を吸収しやすくなる為、学校で身に付けた技術は消して無駄ではないという事を教科担当より伝えた。

②離職率を減らす為に、ブランド(百貨店)の特徴を研究したうえで受験するように促すことで離職率が減るのではないかと
 ⇒就職対策という授業の中で企業研究の仕方を従来とは違う方法で担任より伝えた。

③専門学校で養う要素としてチャレンジ精神が大切なのではないかという意見を頂いた。
 ⇒学校の学生便覧(生徒ルールブック)に取り入れ生徒にチャレンジする心を養っているがまだまだ課題は多く見受けられる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
富田 香奈	株式会社 フェリーチェ	平成31年4月1日~令和2年3月31日	関連業界等関係者
張間 勇介	株式会社 芭里絵	平成31年4月1日~令和2年3月32日	関連業界等関係者
宍戸 優	有限会社 メイクアップアトリエ	平成31年4月1日~令和2年3月33日	卒業生
中村 結衣	飛鳥未来高等学校札幌キャンパス	平成31年4月1日~令和2年3月34日	その他校長が必要と認める者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL
<http://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/kankeisya/sapporo-beauty.pdf>

令和元年7月31日公表

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2) 各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、
(3) 教職員	教員数、組織、専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/schoolinfo/sapporo-beauty.pdf>

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティ科) 令和元年度																
分類	必修	選択	自由 選択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○			ビジネスマナー I	検定取得を目指し、敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方をはじめ、ルールやマナーを学ぶ。	1 年	30	2	○			○				○
	○			カラーコーディネート I	色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に着ける。パーソナルカラーコーディネートの資格取得を目指す。	1 年	30	2	○			○				○
	○			デッサン・イラストレーション	観察力と洞察力を養い芸術を理解する。	1 年	30	2	○			○				○
	○			未来デザインプログラム I	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1 年	15	1	○			○				○
	○			皮膚学 I	皮膚の働きやしぐみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。皮膚の基礎知識・美容上大切な皮膚の6つの働きなども理解していく。	1 年	30	2	○			○				○
	○			皮膚学 II	皮膚の働きやしぐみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態・肌と環境・肌分析なども理解していく。	1 年	30	2	○			○				○
	○			生理学 I	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。骨格系・筋系・神経系なども理解していく。	1 年	30	2	○			○				○
	○			生理学 II	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系・生殖器系等も理解する。	1 年	30	2	○			○				○
	○			栄養学 I	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。	1 年	15	1	○			○				○
	○			栄養学 II	5大栄養素・栄養所要量・食物摂取とその消化吸収等も理解していく。	1 年	15	1	○			○				○
	○			化粧品学 I	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。化粧品概論・ネイル、メイク、ヘアケア化粧品・フレグランス・化粧品の原料等も理解していく。	1 年	15	1	○			○				○
	○			エステティック概論・衛生学・関係法規 I	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。	1 年	15	1	○			○				○
	○			ベーシックエステ I	身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディトリートメントを学び、エステティックの流れ、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。	1 年	60	2	○			○				○
	○			ベーシックネイル I	ネイルについて歴史などの背景から始まり各部名称や病気・消毒法などを理解し、基礎的な маникюра 技術を実践できる。	1 年	60	2	○			○				○
	○			ベーシックメイク I	授業を通じて、メイクアップの楽しさや業界理解を出来る様にする。	1 年	60	2	○			○				○
	○			就職対策 I	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導する。	1 年	15	1	○			○				○
	○			化粧品学 II	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。フェイシャル、ボディ化粧品・化粧品に用いられる薬剤とその働きを学ぶ。	1 年	15	1	○			○				○
	○			エステティックカウンセリング I	一人ひとりの心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。	1 年	15	1	○			○				○
	○			ベーシックネイル II	基礎的なネイル技術に加えて JNA 2 級課題である付爪やネイルアート等を学び、ネイルサロンで通用する技術を習得する。	1 年	30	1	○			○				○

○	パーソナルヘア&メイクⅡ	テーマに合わせた、メイクとヘアアレンジ技術を時間内に仕上げる事が出来る。	2年	60	2		○	○	○									
○	トータルメイク	メイクの基礎技術を学び、テーマに合わせたメイク技術を習得する。	2年	60	2		○	○	○									
○	サロンワーク（インナービューティアー）	美容室、エステ等ビューティアーサロンで必須な受付、応対術を学ぶ。	2年	60	2		○	○	○									
○	プロフェイシャル（ヒーリング）	フェイシャルテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得（コンサルテーション・エステティック機器・ハンドテクニック・接客マナーを理解する。）	2年	120	4		○	○										
○	アロマセラピー総論	エステティック知識総合（H専攻対応） スキントッチと効果・脳の誕生と進化・機能・脳神経の構造と働き・心と肥満の関わり・ハーブのプロフィールを学ぶ。	2年	60	4	○		○										
○	エステティック総論（ヒーリング）	エステティック知識総合（資格試験対応） 皮膚学・生理解剖学・栄養学・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学を学ぶ。	2年	30	8	○		○										
○	検定対策Ⅲ	1年次に学んだネイル技術に加え、検定合格に繋がる知識・技術をマスターし、実践できる。	2年	60	4	○		○										
○	検定対策&スカルプチュアⅠ	1年次に学んだネイル技術に加え、検定合格レベルの知識技術をマスターし、サロンで通用するスカルプチュア技術の習得を目指す。	2年	60	4	○		○										
○	検定対策&スカルプチュアⅡ	2年前期に学んだネイル技術に加え、検定合格レベルの知識技術をマスターし、サロンで通用するスカルプチュア技術の習得を目指す。	2年	60	4	○		○										
○	プロフェイシャルスキンケアⅡ	フェイシャルテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得（コンサルテーション・エステティック機器・ハンドテクニック・接客マナーを理解する。）	2年	60	2		○	○										
○	スパセラピー	スパトリートメントをマスターしトリートメントの知識・技術を習得する。	2年	120	4	○		○										
合計			99科目			5135単位時間（220単位）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。